

平成27年度「学校の森」取組み内容アンケート回答用紙

学校名	岩手県盛岡市立下橋中学校	(都道府県より記載ください)
-----	--------------	----------------

1、学校の森の状況について（該当する番号に○：広さはおおよそで結構です）

- 1) 校庭の植栽木等のスペース（広さ ha）を活用
 - 2) 近隣の公園の植栽木等のスペース（広さ ha）を活用
 - 3) 学校の敷地内／隣接地にある森（広さ ha）を活用
 - 4) 学校から徒歩30分圏内にある森（広さ ha）を活用
 - 5) 学校から徒歩30分超圏にある森（広さ ha）を活用
- （自転車で30分以内、車で10分以内、車で30分以内、車で30分超）

校庭の樹木はありますが、SHEL学習では特に活用していません。

2、1で3)～5)と回答した学校へ 森の権利関係について

(該当する番号に○)

- 1) 学校所有
- 2) 分収造林契約（契約期間： ）
- 3) 悠々の森協定を締結して国有林を活用
- 4) 県／市町村／財産区有林を活用（活用の根拠契約 あり／なし／不明 ）
- 5) 私有林を活用（森林整備義務を伴う契約締結、その他、不明）
- 6) 公共の施設を使用（具体的には、 ）
- 7) 不明
- 8) その他（ ）

3、フィールドの地域開放について（該当する番号に○）

- 1) 学校だけで使用
- 2) 地域に開放（以下のいずれかの理由がある場合は該当番号に○）
 - ① 森林整備に地域の人々にも協力頂いているので開放している
 - ② 地域の防災拠点でもあり、開放している
- 3) 一般の人に開放されている公共施設を学校の森として活用している

4、学校の森の活動開始時期について（下線部に記入）

西暦 1996 年から（内、中断 西暦 年から 年まで）

（中断の理由： ）

5、学校の森と授業時間の関係について（該当する番号と（ ）内の文言に○）

- ① 授業時間で取組み（通常の授業、校外学習
- 2）授業時間以外で取組み（ 休み時間 、 放課後 、 休日 ）

【以下授業で活用している学校への質問】

6-1、学校経営方針の下で森を使った授業の位置づけ

（該当する番号に○：複数回答可）

- ① 子ども達の自然体験機会が減少する中で貴重な体験学習と位置づけている
- ② 総合的な学習の時間に相応しいテーマと位置づけている
- ③ 自校の特色ある学習と位置づけている
- ④ 環境学習の様々なメニューの一つと位置づけている
- 5）地域に開かれた学校を目指す一環の授業と位置づけている
- ⑥ ESD の推進にとって重要な要素と位置づけて取り組んでいる
- 7）震災を受けて防災・減災の視点を含めて取り組んでいる
- ⑧ 屋外での授業に学習効果が見られることに着目して取り組んでいる
- ⑨ その他（自分の生き方・在り方を見つめる学習の一環としても位置づけている）

7-1、授業で森を活用する視点（該当する番号に○：複数回答可）

- 1）森では子ども達の集中力が高まり、学習を進めやすい
- 2）森での体験を通じて学んだことはエピソード記憶として長期記憶に繋がる
- ③ 森での体験を通じて自然への感性を養うことができる
具体的には、
 - ① 自然の中で伸び伸びと過ごすことで養われる感性
 - ② 森の多様性を前に生態系の繋がりを理解する感性
 - ③ 自然なしに人間は生きられないが、同時に自然は人間の脅威にもなりうる存在であることを理解する感性
- ④ 森での体験学習では、子ども達が自ら課題を発見するという行動に繋がる
- ⑤ 子ども達の主体的な行動が生きる力を身につける行動に繋がる
- 6）森の中で答えのない課題に取り組むことによって、教室では消極的な子どもが積極的に行動できる
- 7）森の中での行動は、子ども同士で助け合う行動を誘発する
- ⑧ 先生以外の地域の人等が学習に参加することで子ども達の視野が広がる
- ⑨ 森という地域資源を学ぶことで地域を知り、更に地域を誇りに思うことで、そこに住む自分自身の有用感が高まる
- ⑩ その他（ 共生 未来を拓く 自ら考え、関わる 等 ）

8-1、学校の森の活動を行っている対象学年、授業科目、年間時間数について

(下記の表の該当する欄に年間授業時間数を記入)

科目	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
生活科							
総合的な学習	17		26				
国語							
算数							
理科							
社会							
道徳							
図工							
その他							

9-1、学校の森の授業で伸ばしたい子どもの力(該当する番号に○:複数回答可)

- 1) 気付き、驚き、不思議等の自然に対する豊かな感性
- 2) 探求する力
- 3) 子ども達同士で協力し、助け合う行動をとる力
- 4) より良く生きる為の知恵を身につけること
- 5) より良く生きる為の提案を出せる力
- 6) 自らの提案を実行する力

【以下授業以外で活用している学校への質問】

6-2、授業での活用を行っていない理由（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 森での活動を授業に取り込む必要を特段感じていない、
- 2) 森での活動を授業に取り込みたいが現時点では障害がある
- 3) その他（ ）

7-2、6-2で2）と回答した学校へ 授業で活用する上での障害について

（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 各教科で習得すべき単元数が増加し、余裕が無い
- 2) 総合的な学習に相応しいテーマが森の活用以外に別にある
- 3) 森はあるが整備されていないので利用できない
- 4) 先生だけでは指導ができず、外部の指導者もいない
- 5) 森の整備にはお金がかかるので、継続して活用することが困難
- 6) その他（ ）

8-2、子ども達にとっての有用性について（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 家庭では自然と接する機会が少ないので貴重な自然体験の場となっている
- 2) 屋外で体を動かすことで子ども達が健康になった
- 3) 助け合う等子ども達同士の関係が良好になっている
- 4) 学校の先生以外の地域の人等との人間的なつながりで視野が広がる
- 5) その他（ ）

【以下全ての学校への質問】

10、学校の森の活動の指導者について（該当する番号に○）

- 1) 先生が主体
- 2) 森林管理署、NPO、PTA等の先生以外が主体
- 3) 先生と森林管理署、NPO、PTA等の先生以外の協同態勢
- 4) その他（
森林管理署、NPO等の学外団体の具体名
（岩手大学 NPO「森は海の恋人」）

11、指導の場面で地域の協力を得ている学校についての質問

（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 学校について地域の理解が得られ、地域と学校との関係が良好になった
- 2) 先生の地域への関心が高まった
- 3) 地域の人々の力を借りることで子ども達の授業への関心も高くなった
- 4) 子ども達が自分の地域を好きになり、自己有用感が高まっている
- 4) 地域の人々との調整で時間がとられて先生は大変になった
- 5) その他（

12、学校の森についてのPTAの関わり（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 森の整備についてボランティア協力
- 2) 森の活動時の見守りについてボランティア協力
- 3) 森の整備や備品の購入等の活動経費の支援協力
- 4) 特段の支援はない
- 5) その他（

13、12でPTAの協力を得ていると回答された学校へ 具体的な内容

--

14、学校の森の活動に必要な道具について（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 軍手
- 2) 長靴
- 3) ノコギリ、鎌
- 4) 木工関係の道具
- 5) 観察板・虫取り網・飼育ケース
- 6) その他（救命胴衣）

15、14の道具の用意について（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 学校で購入
- 2) 外部からの寄付
- 3) 子ども達の家庭から持参
- 4) 森林管理署、NPO等の学外団体からの借り入れ（具体名：救命胴衣）
- 5) その他（）

16、14の道具の購入以外に学校の森の活動に要する費用について

（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 指導者謝礼
- 2) 歩道刈り払い等の毎年発生する森林整備の外注費用
- 3) 樹名板等の林内設置物の費用
- 4) 児童／生徒の森までの往復交通費
- 5) その他（バス代、宿泊費）

17、上記費用のおおよその金額について（数年に一度の森林整備費用は除く）

（該当する番号に○）

- 1) なし
- 2) あり
- ① 1万円未満 ② 1万円以上 ③ 3万円以上 ④ 5万円以上
- ⑥ 10万円以上（具体的には、万円）

18、17の費用の捻出について（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 学校運営費で賄う
- 2) 参加費として生徒の家庭から集金
- 3) PTAの寄付
- 4) 市町村の予算（教育委員会、教育委員会以外の森林整備セクション等）
- 5) その他（）

19、数年にも一度の大規模な森林整備費用の有無と対処法（該当する番号に○）

- ① 発生しない)
- 2) 発生する
 - ① その場合の整備の内容 ()
 - ② 必要金額 (万円)
 - ③ その資金の捻出先 ()

20、学校の森の活動で困っていること（該当する番号に○：複数回答可）

- ① なし
- 2) フィールドが遠い
- 3) フィールドが整備されていない
- 4) 登る際の傾斜が急である
- 5) 指導者の協力が継続できるかどうか不透明
- 6) 運営上の経費負担が大きく予算を継続できるか不透明
- 7) その他 ()

21、学校の森の平成26年度の活動と前年度の活動比較（該当する番号に○）

- 1) 前年度より進化
 - 具体的には ()
- 2) 前年度より後退
 - 具体的には ()
- ③ 前年度と変わらない
- 4) 平成26年度から開始
- 5) 前年度のことは判らない
- 6) その他 ()

22、学校の森の平成27年度の活動についての展望（該当する番号に○）

- 1) 平成26年度より進化させたい
 - 具体的には ()
- ② 平成26年度なみのことを維持していきたい
- 3) 平成26年度より後退する危惧あり
 - 具体的には ()
- 4) その他 ()

23、活動中止の危機の有無（該当する文言に○）

あり、 なし

ありの場合以下のこういった背景か？（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 所有者との関係で森の使用が出来なくなる恐れがある
- 2) 森の整備の担い手がいなくなって藪に戻ってしまう
- 3) 森の活動で事故が起きて安全管理面での問題を指摘される
- 4) 教室内での授業時間増加の要請／学力低下
- 5) その他（)

24、活動中止の要因として考えられること

特になし、想定できる

想定できる場合以下のこういった背景か？（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 校長交代
- 2) PTA 会長交代
- 3) 指導役の先生の異動
- 4) 協力団体の中断
- 5) 教育委員会の方針変更
- 6) 森の所有者との関係悪化
- 7) その他（)

25、活動継続に向けた対応（該当する番号に○）

- 1) 特に必要性を感じない
- 2) 必要性は感じるが対応は出来ていない
- 3) 一定対応している

具体的には、（該当する番号に○：複数回答可）

- ① PTA の支援を要請
- ② 転入してきた先生を活動の推進役に育成
- ③ 学外の運営協力者／団体を学校経営にも参画させている
- ④ 教育委員会の支援を要請
- ⑤ 森の活用校で連携して活動の成果を普遍的なものにする
- ⑥ 学校評価での実績づくり
- ⑦ その他（)

26、自由記入欄

--

以上アンケートに回答頂き、ありがとうございました。